

書評『採択される科研費申請ノウハウ』

東京工業大学精密工学研究所 細田秀樹

科研費の申請締め切りが迫る中、読者の多くが科研費申請書に頭を悩ませているものと思うが、是非とも採択されたいと願っている研究者は必読すべき本である。また、博士課程学生あるいは進学予定の学生で、特別研究員（DC1, DC2, PD など）を申請する予定の方も、是非、本書を読み、今のうちから準備されることを薦める。

書評者は主に実験系の研究をしているため、科研費の採択は研究活動の是非に繋がり、死活問題である。とはいえ、科研費の申請書とは、単にやりたいことをそのまま書けば良いものではないことを10年くらい前に理解した。やはり、評価・採点され、良い点を取った申請書のみが採択されるものである。したがって、如何に評価者の先生方に他の申請書よりも良い点をつけていただけるかが大事である。このため、科研費申請書の書き方には頭を悩ませ、自分なりに少しでも採択率が上がるよう努力している。

このような中、書き方には多少の「こつ」があると感じる。私としては、これまでに個人的な繋がりのある先生方や事務の方から書き方のノウハウを教えて頂いたことが大きいと感じる。特に、論文と異なり、申請書は公表されているものではないから、他人の申請書を読む機会など無く、一体、どのような申請書が採択されるのか、長年、試行錯誤を重ねている状況であった。読者の方も、どう書けば良いのか、悩まれているのではないだろうか。

本書は、そのような読者を対象とし、どのような申請書であるべきかを明瞭に書いたノウハウ本と言える。著者は、これまで多くの科研費審査に関わり、およびご自身も多くの科研費を採択されている岡田益男先生である。本書では、ご自身のこれまでの科研費申請書も公開されている。その書き方の論理、思考、審査のされ方まで書かれており、どの点が評価されるのか、審査側から書いてあることは、申請者側から見ると大変役に立つ本と言える。また、これまでにあまり目を向けられていない博士学生のDC1や、助教に成り立ての先生や高専の先生のための活動スタート支援や奨励研究の書き方も具体的に指示されている。

著者の岡田先生は、これまで科研費の工学-材料系委員として、科学の進歩のための研究費増額の努力を続けられている方であり、書評者も材料学者として感謝している。特に本書では、高専の先生や若い研究者にも科研費を取って研究をさらに進めて欲しいという、現在は八戸高専で校長を務める著者としての思いも伝わってくる。材料研究者のみならず、科研費採択を願う研究者の方は、本書を一読すべきと強く推薦する。